



反花篇

河野愛子歌集

現代短歌全集

50

花篇

河野愛子歌集

短歌新聞社

反花篇

現代短歌全集50

昭和61年9月7日発行

著 者 河 野 愛 子

発行人 石 黒 清 介

印 刷 協同印刷KK

発行所 短歌新聞社

〒166 東京都杉並区高円寺南4-43-9

振替口座 東京 5-21683

電 話 03 (312) 9185

1092-000357-4362

定価 1800円

目次

明 月 苦 青 燈 肉 降 夜 花 幽 秋 言 擁
晰 壁 貌 星 色 體 霧 目 葵 光 樹 葉 魂

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七

反	浮	青	書	輪	媚	憐	秘
花	鳥	年	斎	郭	笑	愛	色
一七	二五	二六	二四	二四	二五	二四	一六

略	あとがき
歴	
	一六

一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六
----	----	----	----	----	----	----	----

反
花
篇

擁

魂

静けさに洗ひし髪を捲きてゐぬ若からぬ日や
三月の空そら

絵のなかの羊泉ひつじの水を呑むかすかの音す春の
あけぼの

春夕日庭の水場に水浴びて鳥は小さく萌ゆる
形す

暁はつねすこやかに窓に来てかの残像を舐る
ことなし

起^{おき}伏^{ふし}のなかに一日は白粥のあをく煮ゆるをわ
が目守りゐつ

春疾風吹きしく庭に色変へて下^{くだ}りし鳩は長く
漁らず

人恋ひて尽きざる人の歌はあり読みすてて立
つ夜のてのひら

相擁きゆけるやさしさも振りむけば一つに暗
く魂流れゆく

団居^{まどみ}ともなき団居より立ちて来て葉むらが中
のくちなしの白

割箸、燐寸の軸など吉からざる色の傍らに午
すぎこもる

うかがへば闇に犇く花芽らは曇に濡れて紅くれなゐを
研ぐ

言　　葉

策のなかの貝は乾けり風のおと長く吹きゆく

海埋めし街区

いつしかも花は死にゆく色をもてひくく風ふ
く闇の畏かしこき

底はれて生き易かりし性も移らむ涙する少女
を帰らしめにき